

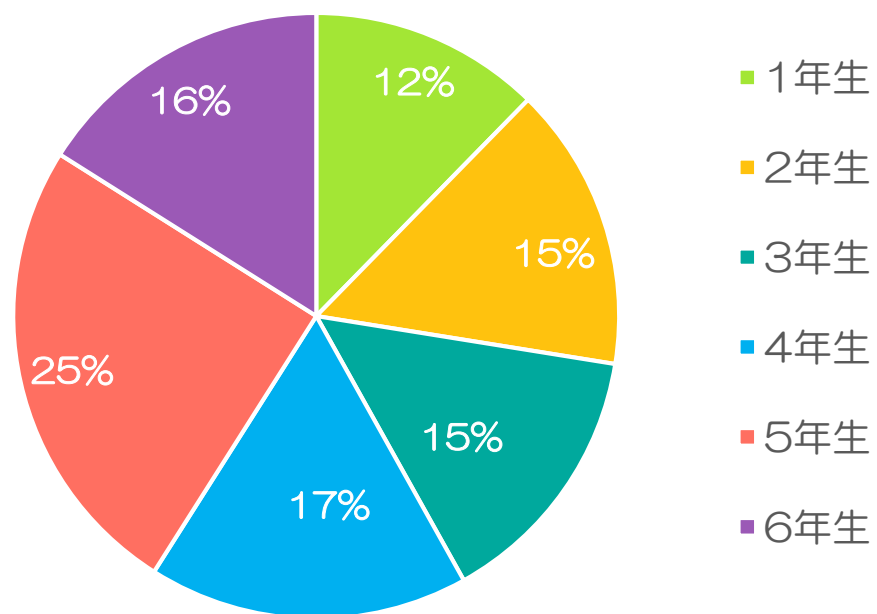
整備方針改定の検討に 向けたアンケート (小学生)

実施期間 令和7年5月15日から6月5日まで

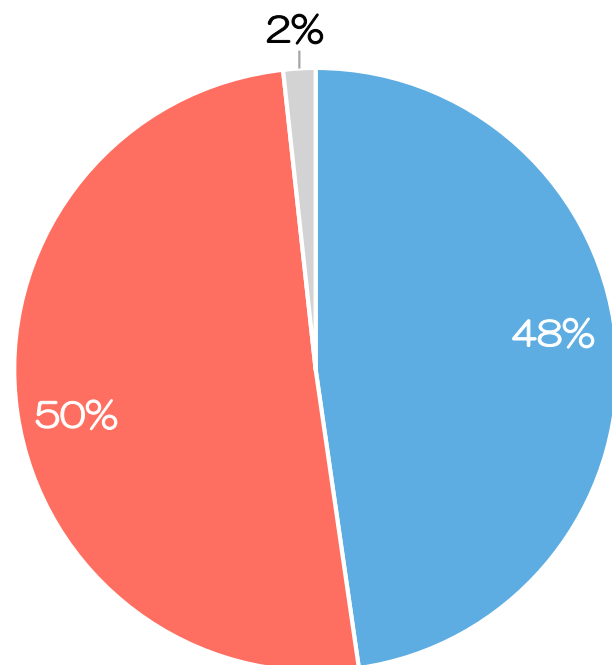
回答数 1,783

東京都北区教育委員会

Q1 何年生か教えてください。



Q2 あなたの性別を教えてください。

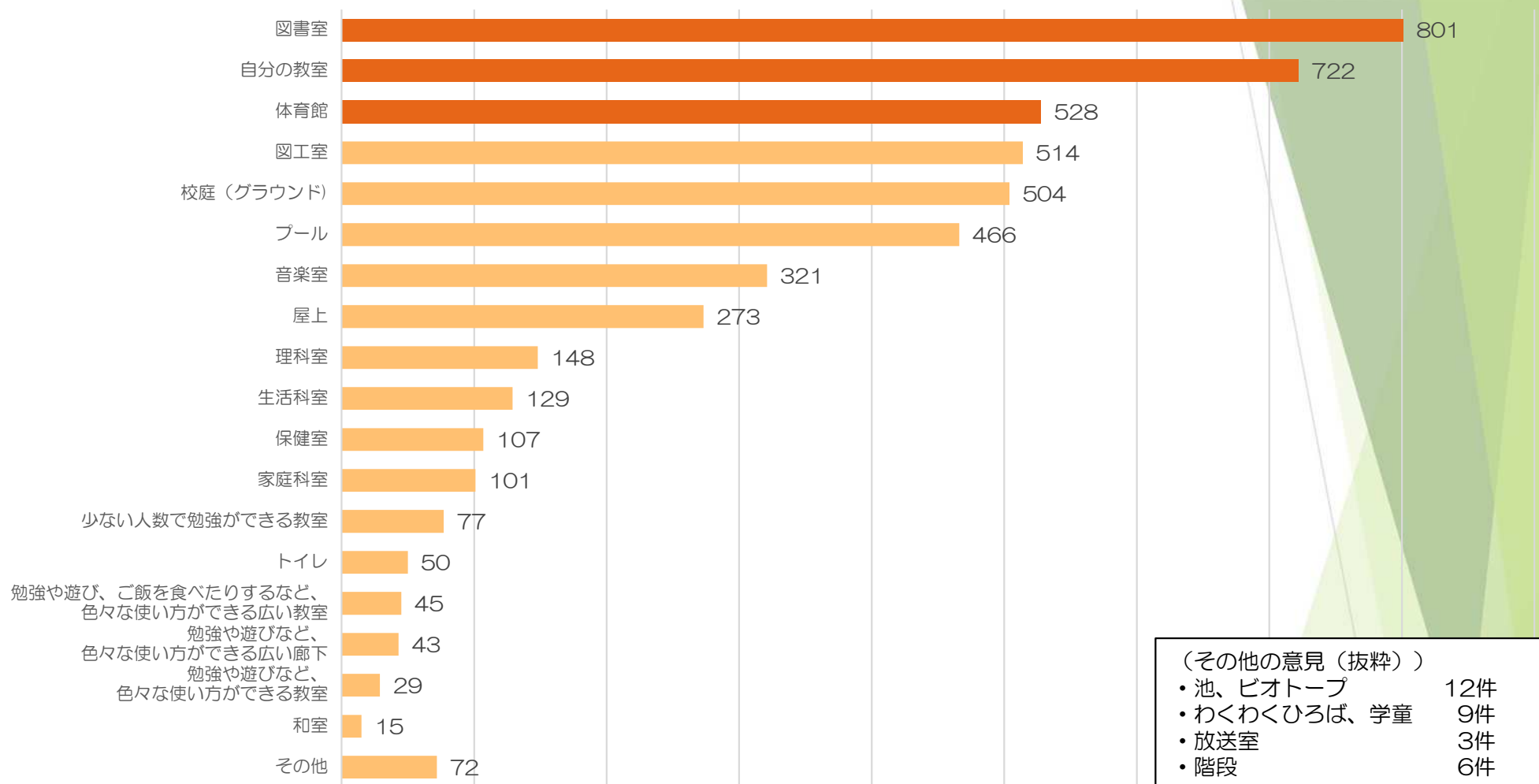


■ 男性

■ 女性

■ その他（わからない、答えたくない）

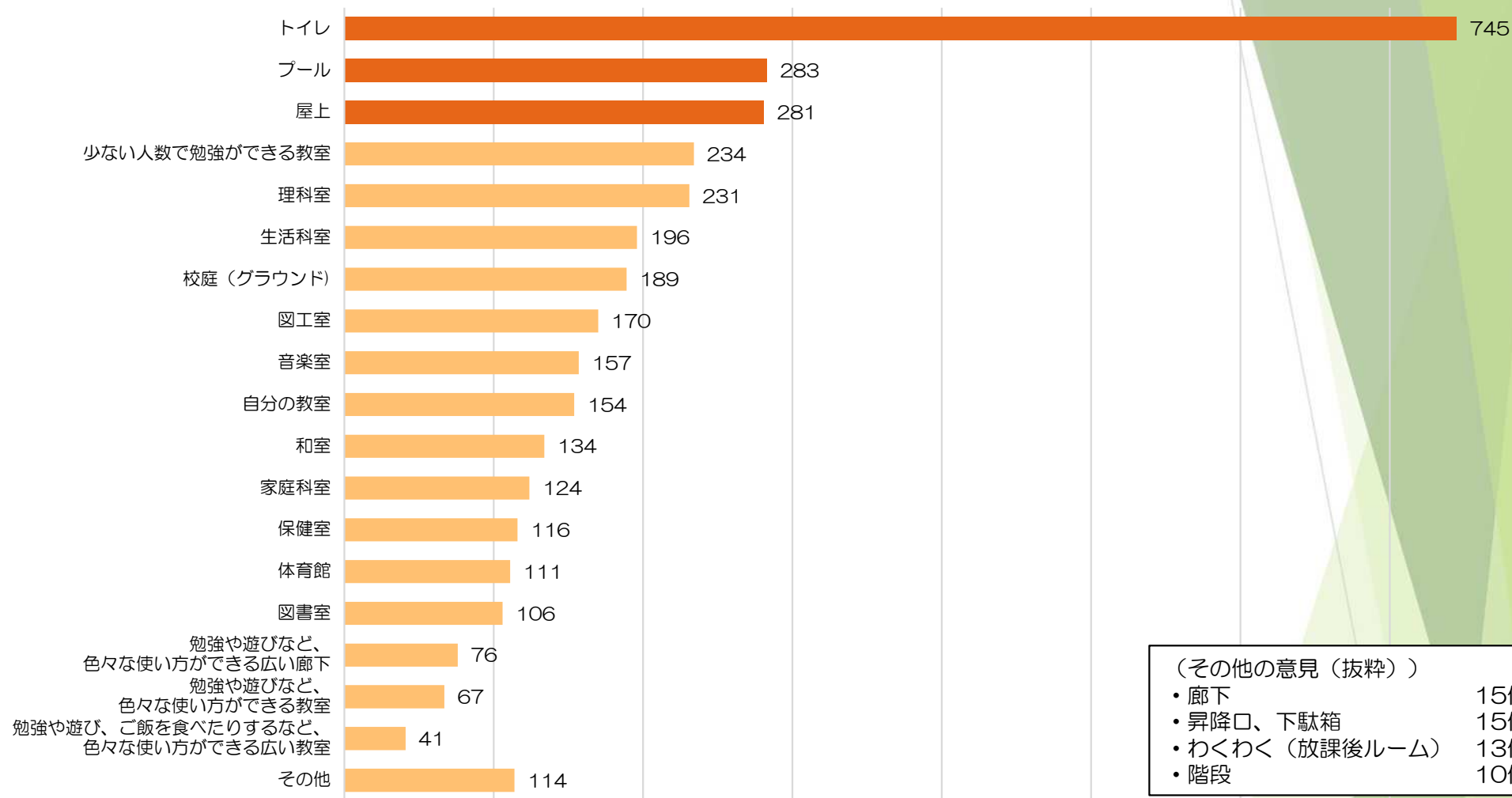
Q3 学校で特に好きな部屋・場所を3つ選んでください。



好きな部屋・場所

「図書室」「自分の教室」と回答した人数が特に多かった。
一方で、「トイレ」「色々な使い方ができる教室」「和室」の回答数が少ない傾向にある。

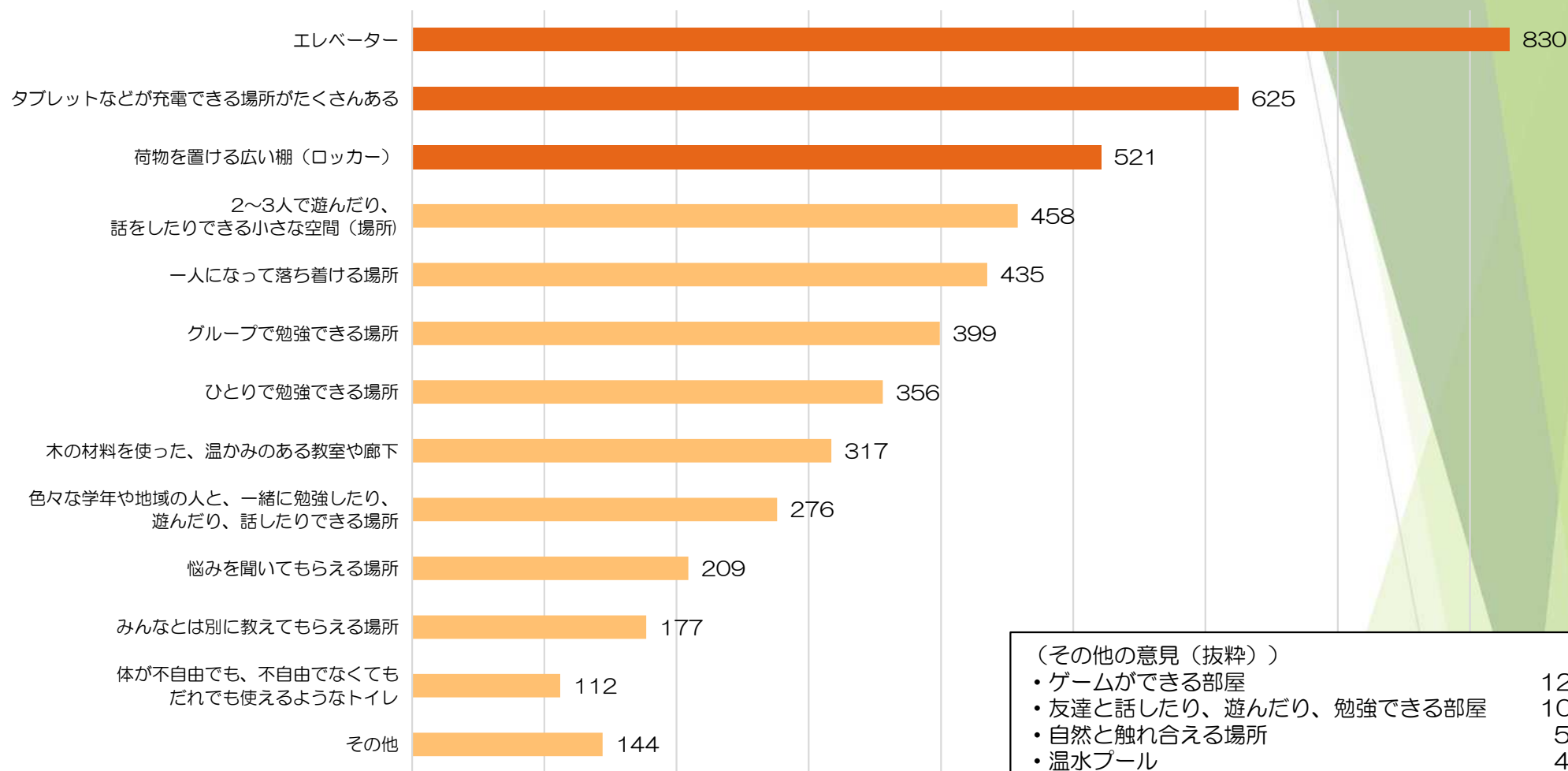
Q4 学校で特に使いにくい部屋・場所を3つ選んでください。



使いにくい部屋・場所

使いにくい場所としては、「トイレ」と回答した人数が特に多かった。
一方で、Q3と同様に「色々な使い方ができる教室」等の回答数が少ない傾向にある。
また、「その他」として、特になし、廊下、昇降口・下駄箱といった意見が多く見られた。

Q5 学校を建て替えたとき、あったら良いと思うものはなにか。（3つ選ぶ）



建替後にあったら良いもの

エレベーターの設置やタブレットの充電場所の拡充、広い棚（ロッカー）の増設など、利便性向上に関する回答数が多い傾向にある。

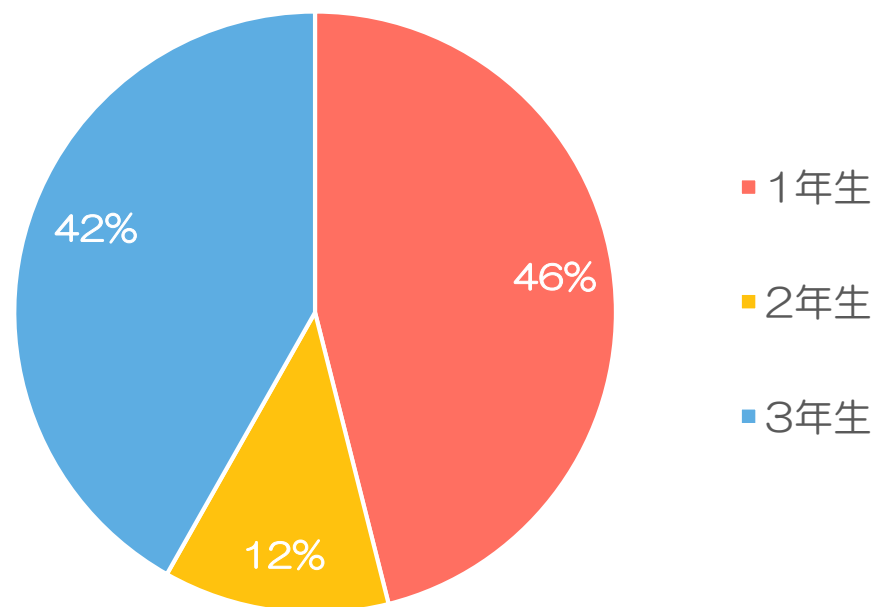
整備方針改定の検討に 向けたアンケート (中学生)

実施期間 令和7年5月15日から6月5日まで

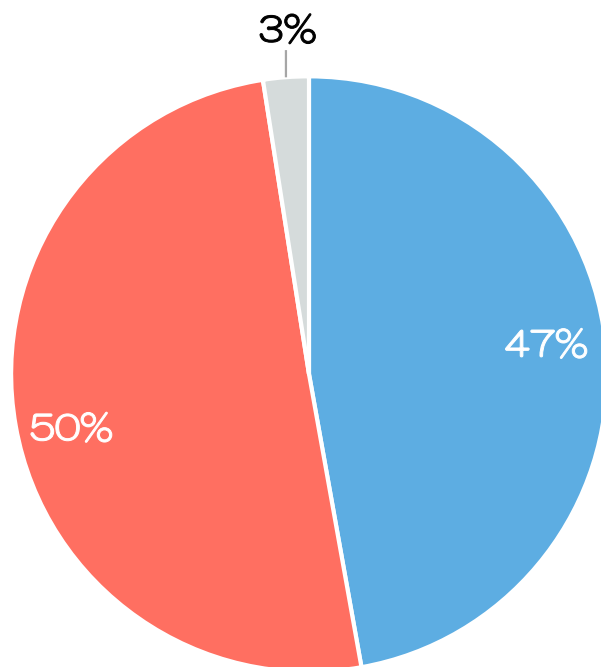
回答数 445

東京都北区教育委員会

Q1 何年生か教えてください。



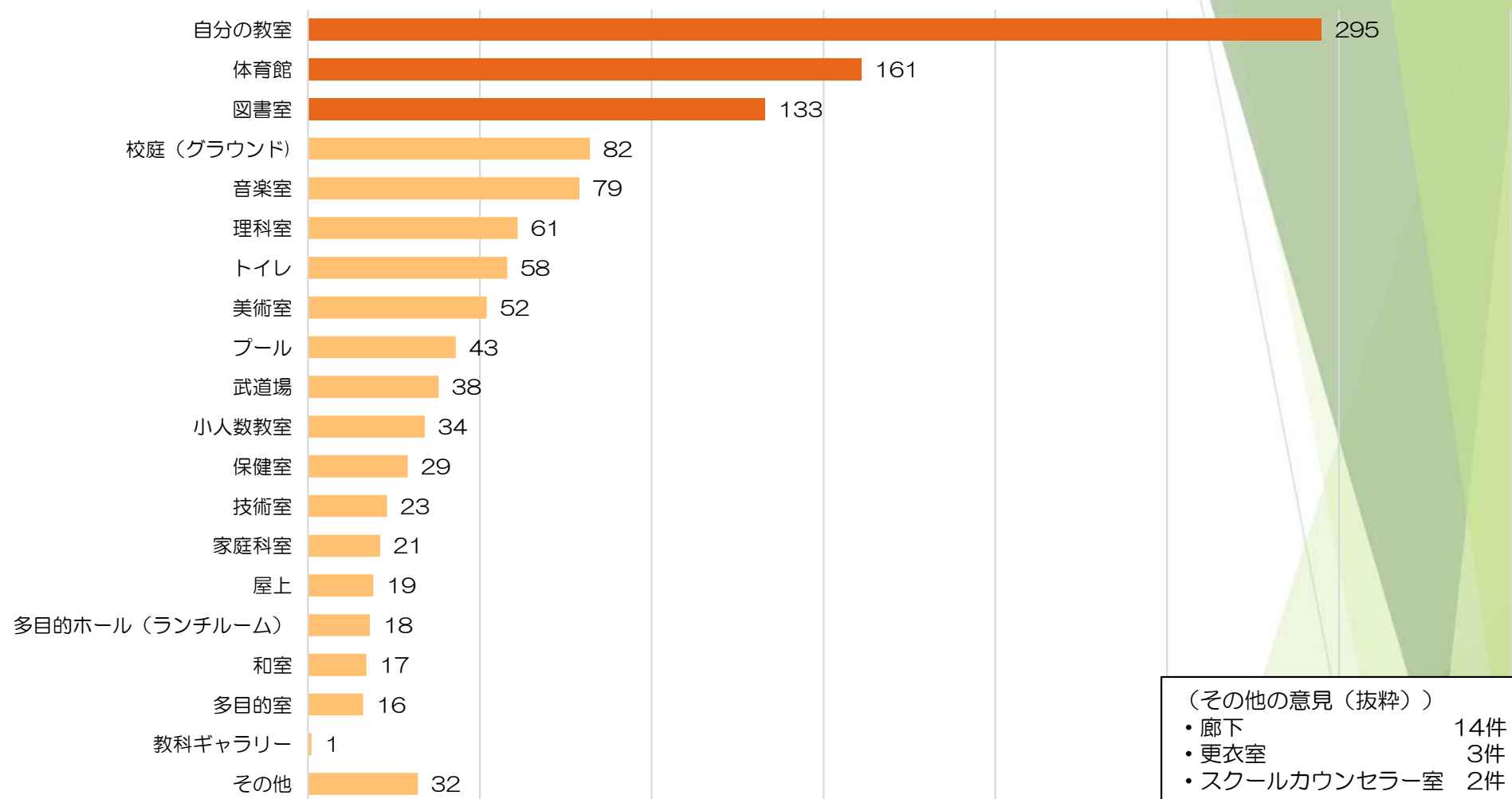
Q2 あなたの性別を教えてください。



- 男性
- 女性
- その他（わからない、答えたくない）



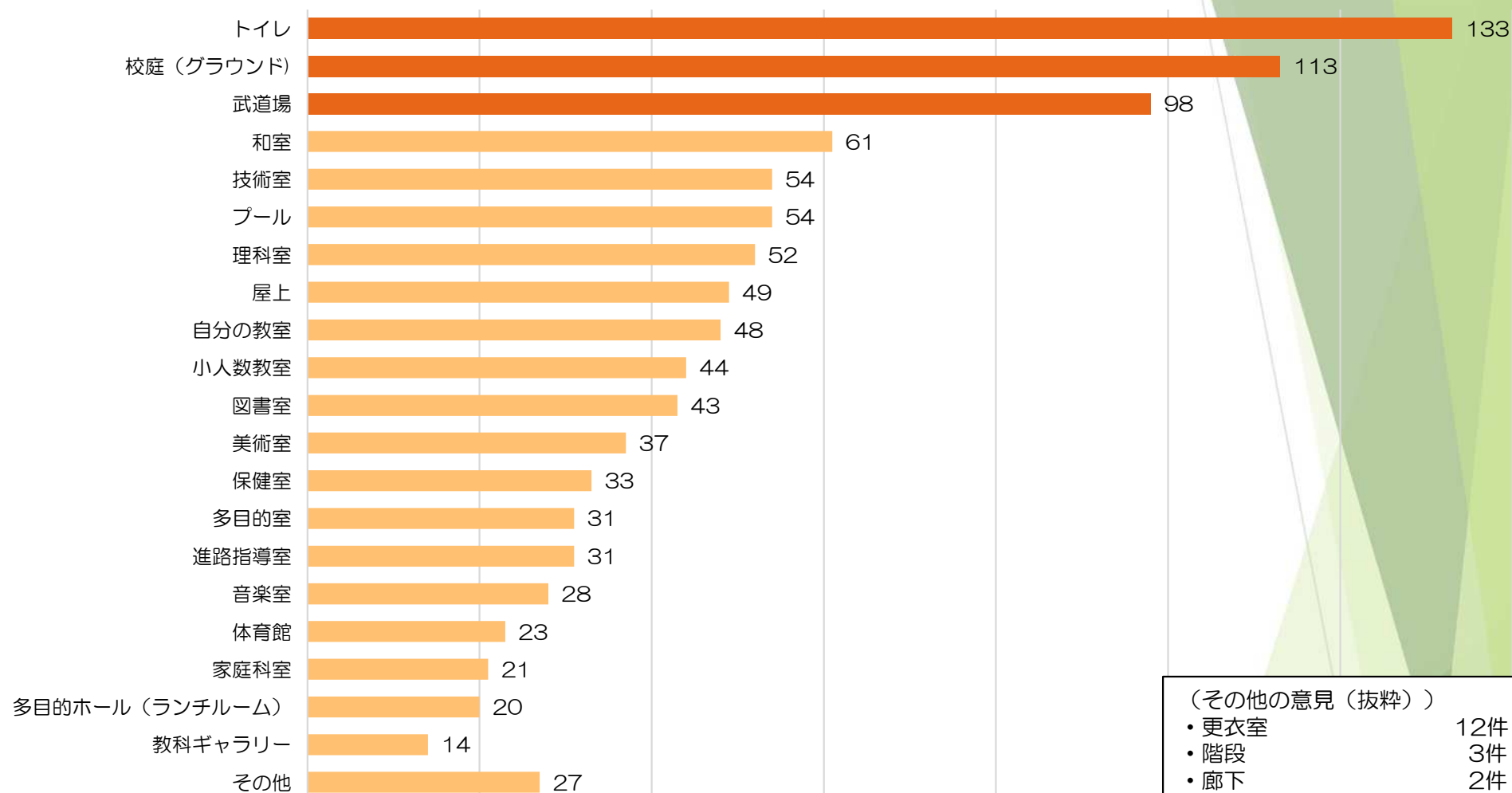
Q3 学校で特に好きな部屋・場所を3つ選んでください。



好きな部屋・場所

「自分の教室」と回答した人数が特に多かった。
一方で、「和室」や「多目的室」といった回答が少ない傾向にある。

Q4 学校で特に使いにくい部屋・場所を3つ選んでください。



使いにくい部屋・場所

使いにくい場所としては、「トイレ」と回答した人数が最も多く、次いで「校庭（グラウンド」「武道場」の人数が多かった。一方で、Q3の好きな場所で最も回答人数が多かった「自分の教室」が使いにくいと感じる生徒が一定数いることがわかる。

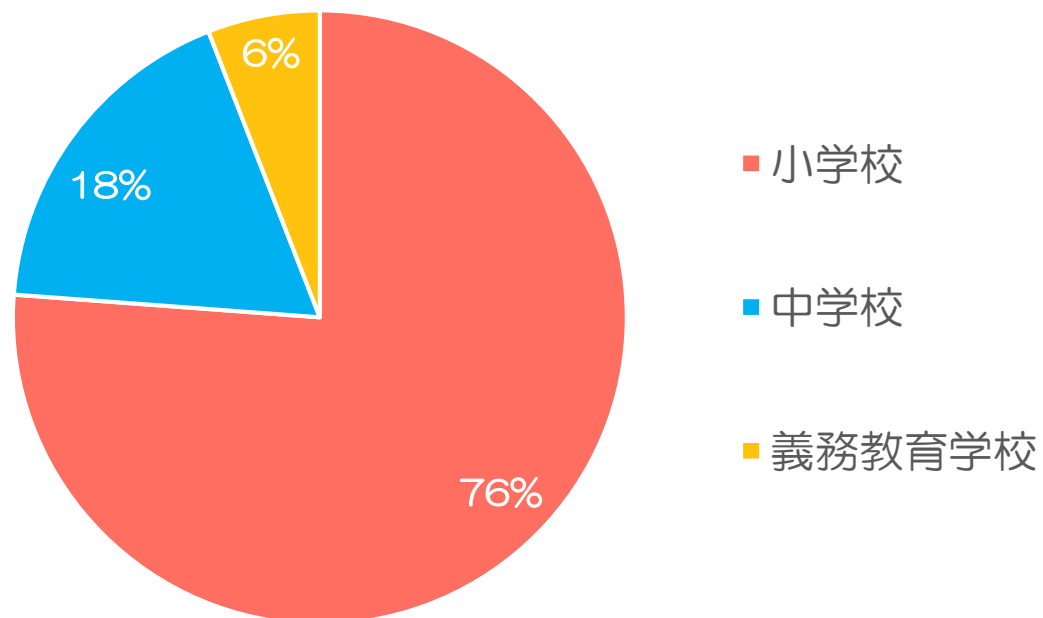
整備方針改定の検討に 向けたアンケート (保護者)

実施期間 令和7年5月15日から6月5日まで

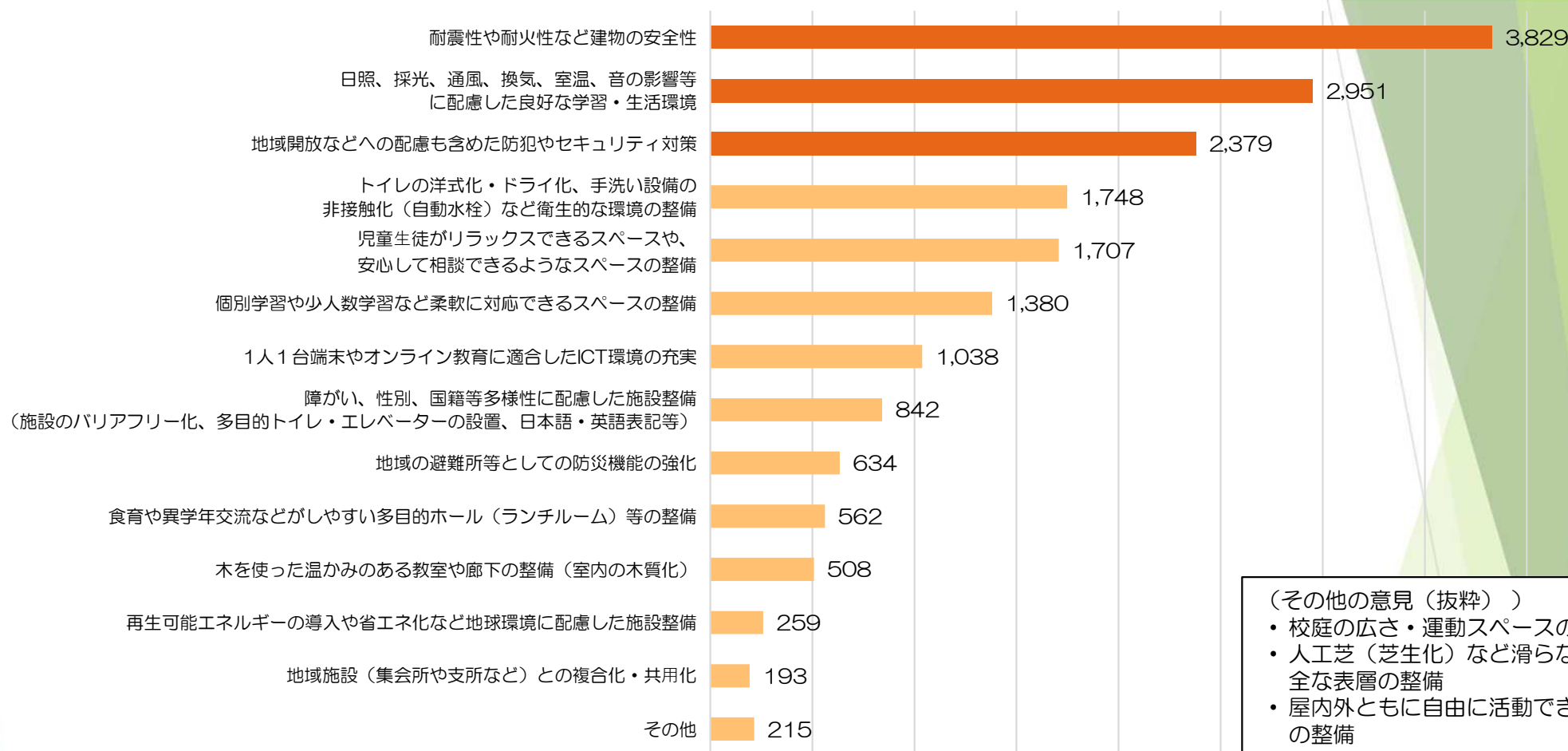
回答数 6,312

東京都北区教育委員会

Q1 お子様が通学している学校名をお答えください。兄弟、姉妹で通学されている場合、最年少のお子様の学校をお答えください。



Q2 小学校の建替えや小・中学校を改修する場合、どのような点が重視されるべきと考えますか。（3つ選択）



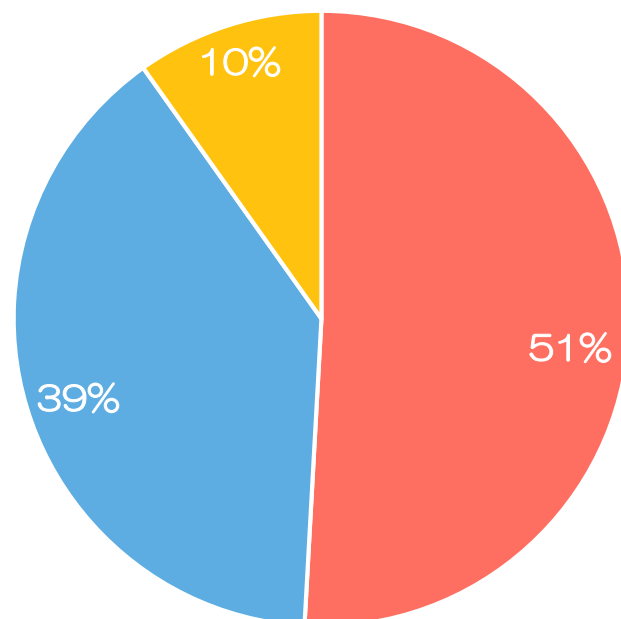
（その他の意見（抜粋））

- ・校庭の広さ・運動スペースの確保
- ・人工芝（芝生化）など滑らない安全な表層の整備
- ・屋内外ともに自由に活動できる場の整備

建替え・改修時に重視されるべき点

耐震性、防犯対策等の安全面に関わりのあるものや、生活環境、衛生環境等の児童・生徒の健康に直接関わりのあるものが比較的上位となっている。一方で、内装（見た目）や使いやすさの向上に関わるものは、比較的回答数が少ない傾向にある。

Q3 建替中（大規模改修中）の児童生徒の教育環境を踏まえ、お答えください。
現在の敷地内で建替工事を進める場合には、騒音や振動だけでなく、グラウンドの利用が制限されるなど、避けられない影響が生じます。
これらの影響を踏まえ、建替えはどのように進めればよいと考えますか。
（1つ選択）



- 工事中の児童生徒への安全対策等を図ることができれば、現在の敷地内で「通学しながらの工事」を進める
- グラウンドが使えない、工事車両などにより安全性が懸念されるなど、学校生活への影響を考えたとき、工事期間中は「使っていない学校などに仮移転させ工事」を進める
※仮移転した場合には、必要に応じ送迎バスの運行を想定
- わからない

建替工事の進め方

安全対策等を図ることができれば、「現敷地内で工事を進める」ことに賛成するとの回答が5割程度あった。一方で、学校生活への影響を考慮して、「移転工事にて進める」という回答は4割程度あった。

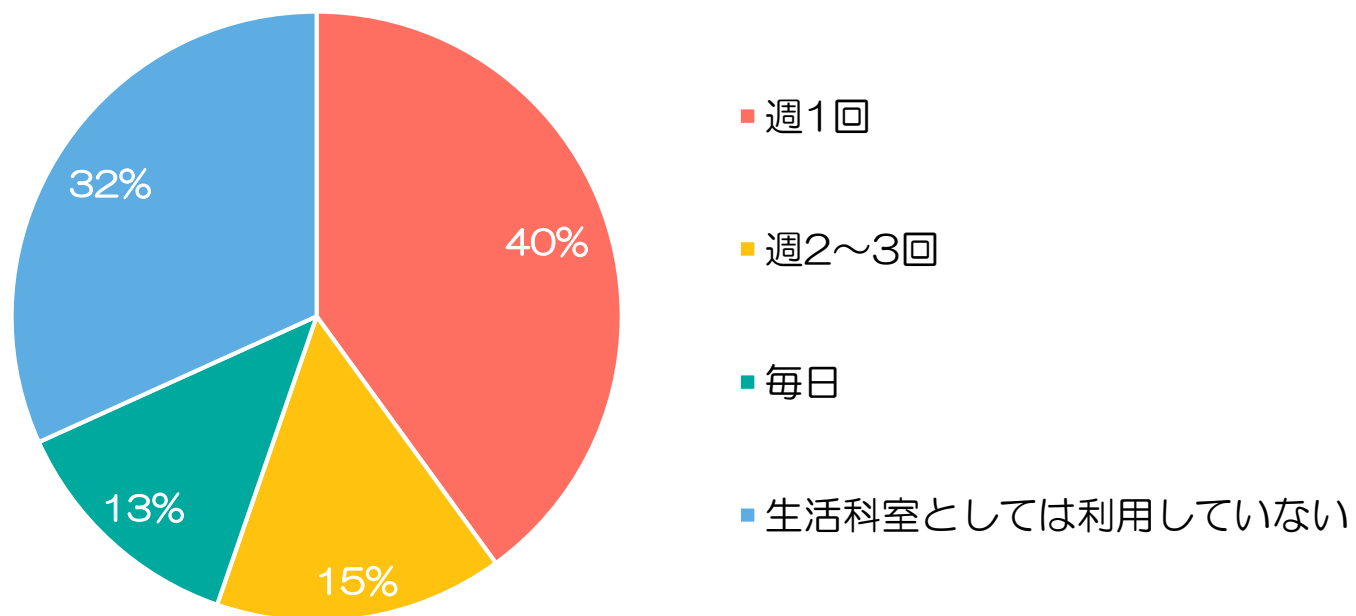
整備方針改定の検討に 向けたアンケート (小学校教員)

実施期間 令和7年5月15日から6月5日まで

回答数 253

東京都北区教育委員会

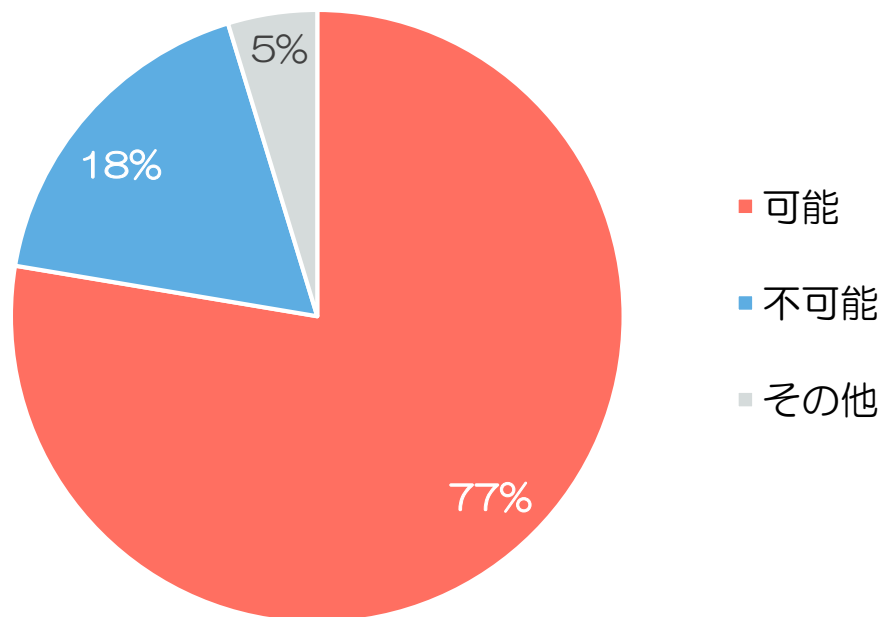
Q1 生活科室の学校全体での利用頻度をお答えください。（1つ選択）
※対象の室が配置されている学校のみを集計対象としています。



生活科室の利用頻度

「週1回」利用するという回答が4割と最も多かった。
また、そもそも「生活科室としては利用していない」という回答が3割強であった。

Q2 生活科室は専用室でなく、多目的教室等で代替することは可能と考えますか。
(1つ選択)



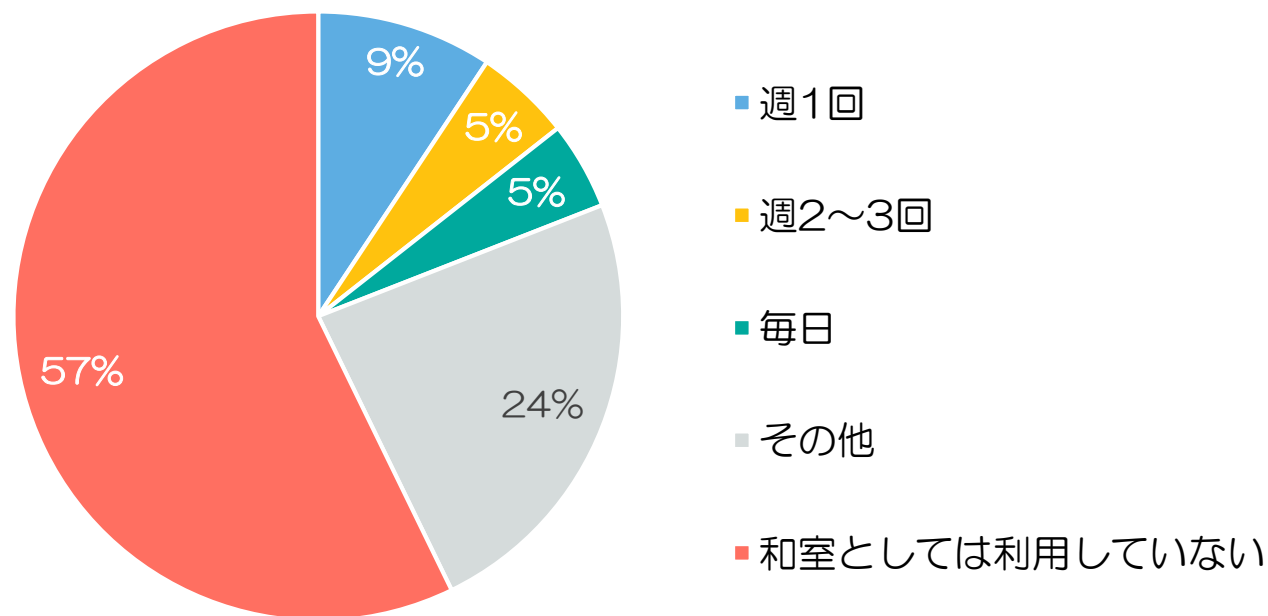
(その他の意見(抜粋))

- ・生活科室の利用状況によるため

生活科室の代替可能性

多目的教室等で代替可能という回答が約8割を占めた。
一部、生活科室の利用状況によるため判断できないという意見も見られた。

Q3 和室の学校全体での利用頻度をお答えください。（1つ選択）
※対象の室が配置されている学校のみを集計対象としています。



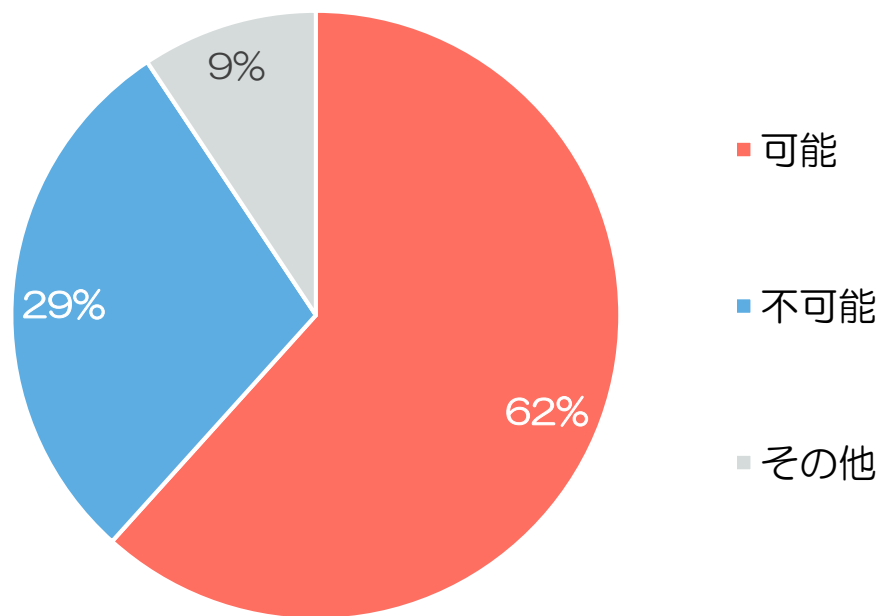
（その他の意見（抜粋））

- ・不定期
- ・月1程度
- ・ほとんど利用なし

和室の利用頻度

少なくとも週1回以上利用しているという回答は、合計で2割弱であった。一方、和室本来の用途で利用していないという回答が約6割にものぼり、その他の2割強では、不定期、月1回程度、ほとんど利用なしという意見が多く見られた。

Q4 和室は専用室でなく、多目的教室等で代替することは可能と考えますか。
(1つ選択)



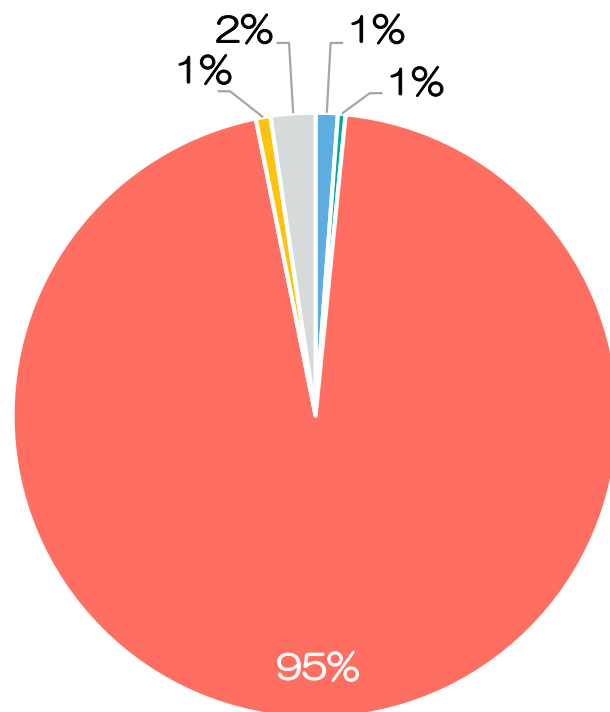
(その他の意見(抜粋))

- 他の用途と共用で利用する場合でも、畳敷きが望ましい

和室の代替可能性

6割以上が多目的教室等で代替可能という回答であった。

Q5 図書室の利用について、最も近いものをお答えください。（1つ選択）

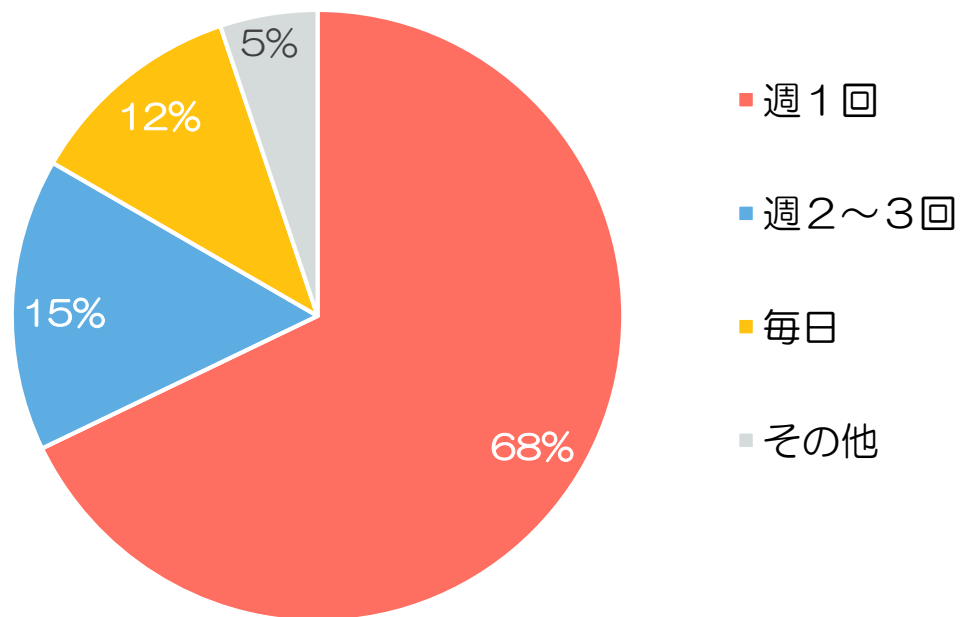


- 3クラス以上が一度に利用することが多い
- 2クラスが一度に利用することが多い
- 1クラスが単独で利用することが多い
- 1クラス未満の児童生徒が利用することが多い
- その他

図書室の利用について

一度に2クラス以上での利用および、1クラス未満での利用がそれぞれ1～2%であったのに対して、9割強が1クラス単独で利用すると回答しており、利用の中心は1クラス単独であった。

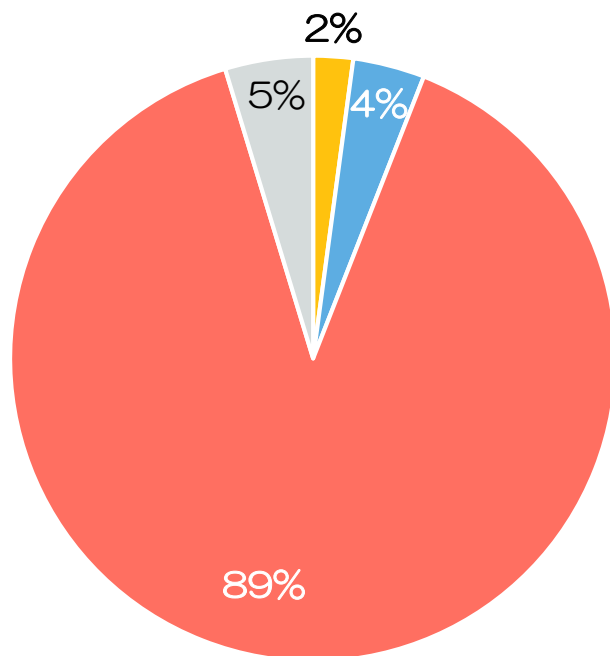
Q6 Q5で選んだ選択肢の利用頻度はどの程度かお答えください。（1つ選択）



図書室の利用頻度

週2回以上利用しているという回答が合計で3割にも満たないのに対し、週1回の利用という回答が約7割を占めた。

Q7 現在の児童の図書室の利用状況から見た図書室の規模について、お答えください。（1つ選択）



- 図書室で本を読む児童が少なく、スペースを縮小しても問題ない。
- 授業などで利用する際は、近接する多目的室などで代替するなどの対応を考慮することで、閲覧スペースを縮小することは問題ない。
- 児童が頻繁に利用しており、図書室全体を見ても縮小するようなスペースはない。
- その他

（その他の意見（抜粋））

- ・冊数が少なく、部屋も小さい
- ・情報センターとして活用するためにも、スペースが必要であると考えるが、増設することは現実的に難しい
- ・今後、蔵書を増やすことを考えると、今のままでは狭い

図書室の利用規模について

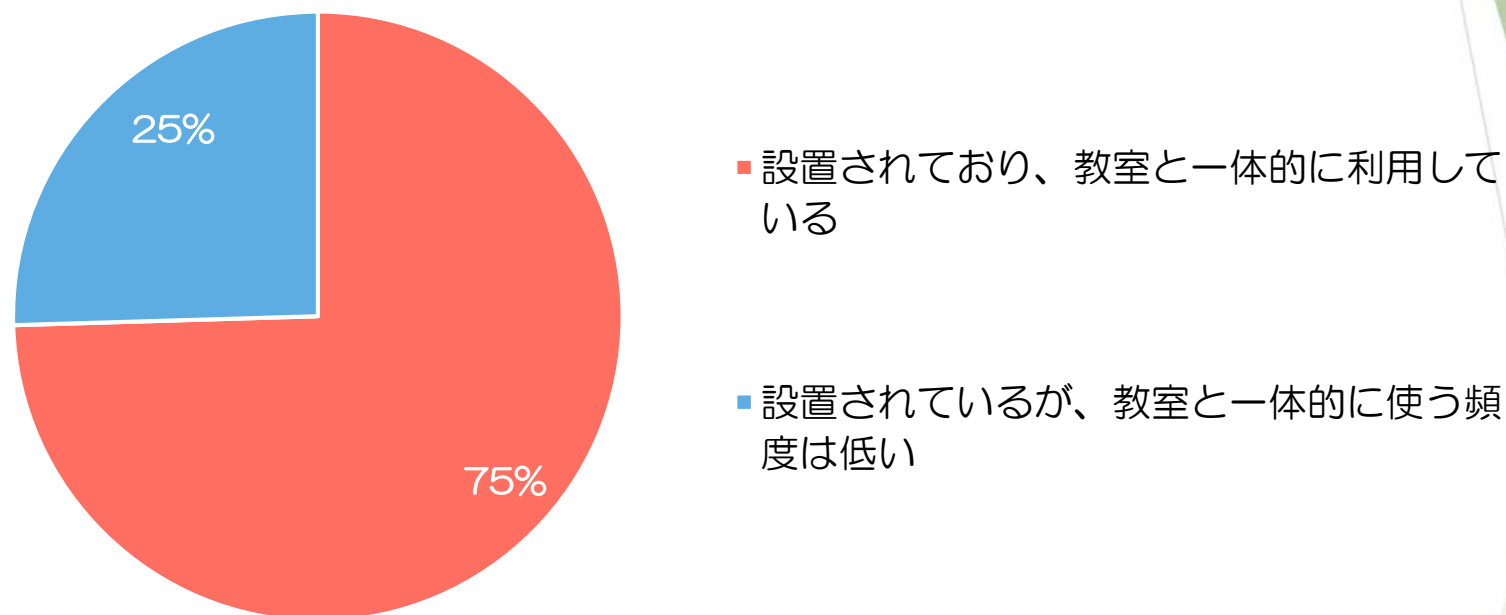
利用規模については、「児童が頻繁に利用しており、縮小するようなスペースはない」との回答が8割以上であった。

※なお、未改築校は、もともとの図書室の規模が小さい学校が多いため、改定後の整備方針に基づいて整備すると、多くの学校の図書室の規模が拡大することを想定している。

Q8 勤務する学校における「オープン型教室」の利用状況についてお答えください。（1つ選択）

※「オープン型教室」とは、教室と廊下の壁をなくし、廊下部分を多目的スペースとして学習空間に活用できるようにした教室です。北区の学校には、廊下と教室の間に可動式の仕切りを設置したオープン型教室があります。

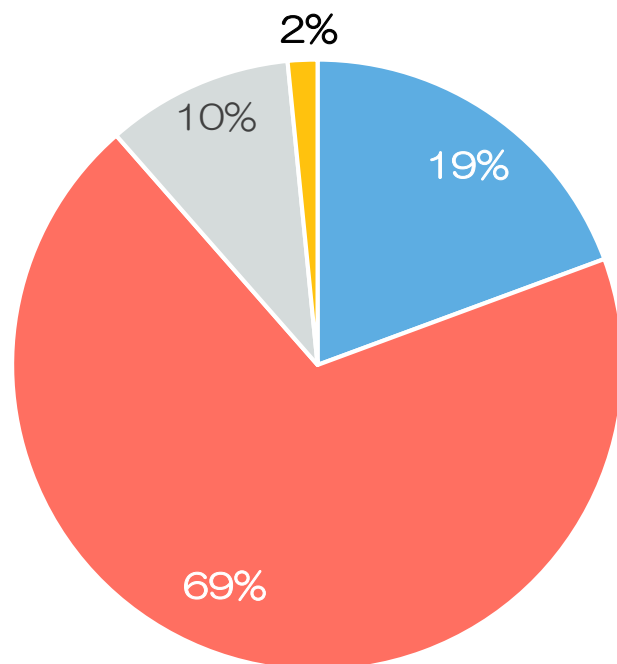
※対象の室が設置されている学校のみを集計対象としています。



オープン型教室の利用状況

オープン型教室を教室と一体的に利用しているという回答が7割程度あった。一方、一体的に使う頻度は低いという回答は3割程度あり、有効的に活用されていない学校が一定数ある。

Q9 オープン型教室と同様の機能をもった学習環境を確保するには、どのような方法があると考えますか。
(1つ選択)



- 現在の多目的教室や多目的ホールを活用することでオープン型教室の機能はカバーできる
- 各教室との連続性はなくても、ワンフロアに1箇所程度、新たに多目的に使えるスペースを確保できれば、オープン型教室の機能はカバーできる
- その他
- 未回答

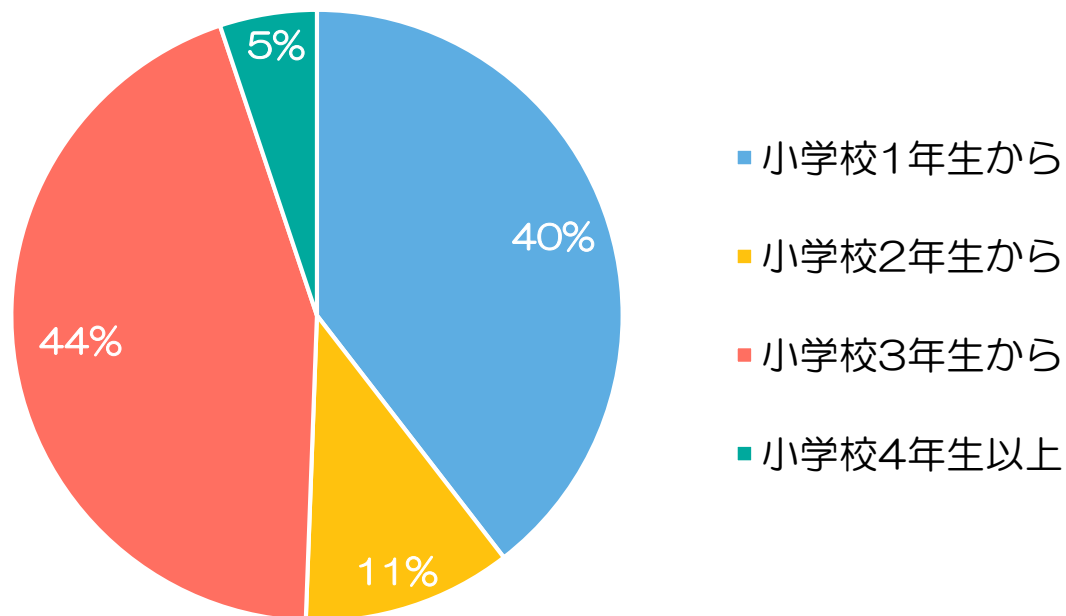
(その他の意見(抜粋))

- オープン型教室はあくまであの形だから成り立つのであって、「機能をカバーする」ことは考えにくい
- オープン型教室と同様の機能をもった学習環境の確保は、オープン型教室を作らないと難しい
- 授業内容に応じて、パーティション等で教室を仮仕切りし、視覚的に遮ることで代用できるかもしれない

オープン型教室と同様の機能を確保する方法

7割程度が「各階に新たな多目的スペースを確保することで代替できる」と回答している。

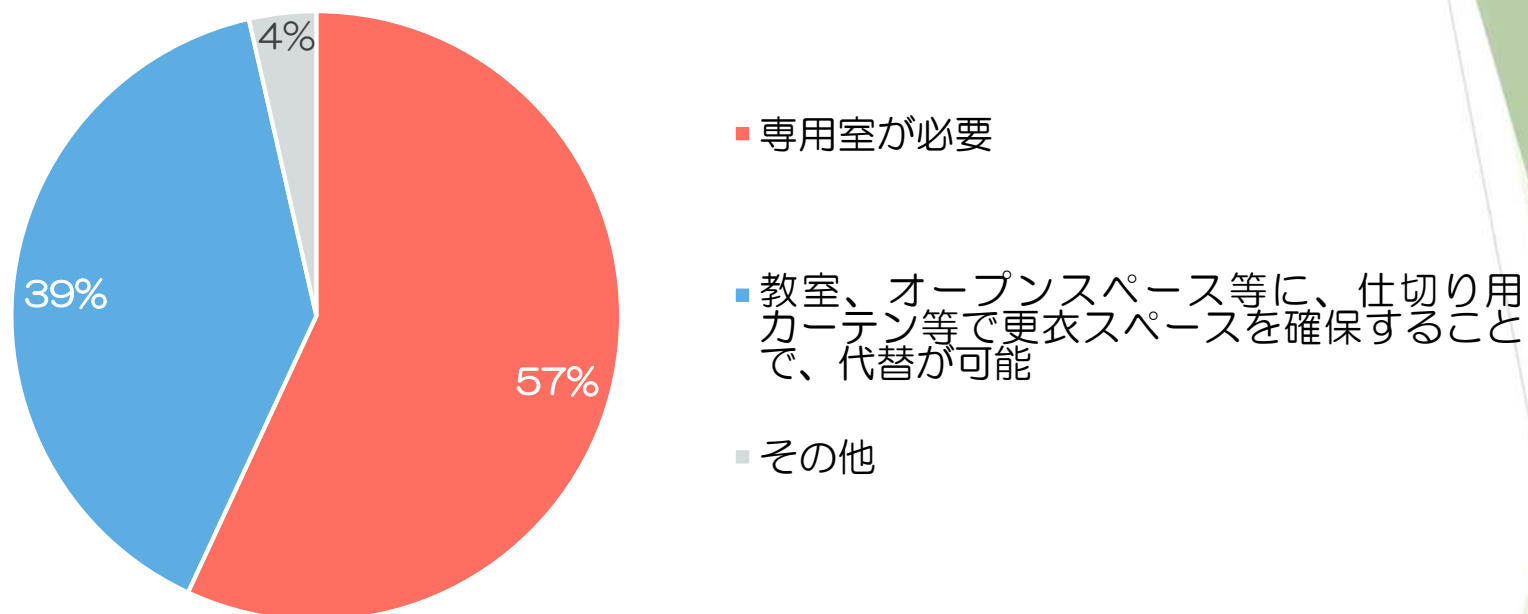
Q10 更衣室や更衣スペースが必要となる時期は、いつごろと考えるか、お答えください。（1つ選択）



更衣室の必要時期

小学3年生（中学年）で必要との回答が4割以上であった。
一方で、小学1年生（低学年）から必要との回答についても4割であった。

Q11 小学校において、体操着への着替えのための専用室が必要か、お答えください。（1つ選択）



（その他の意見（抜粋））

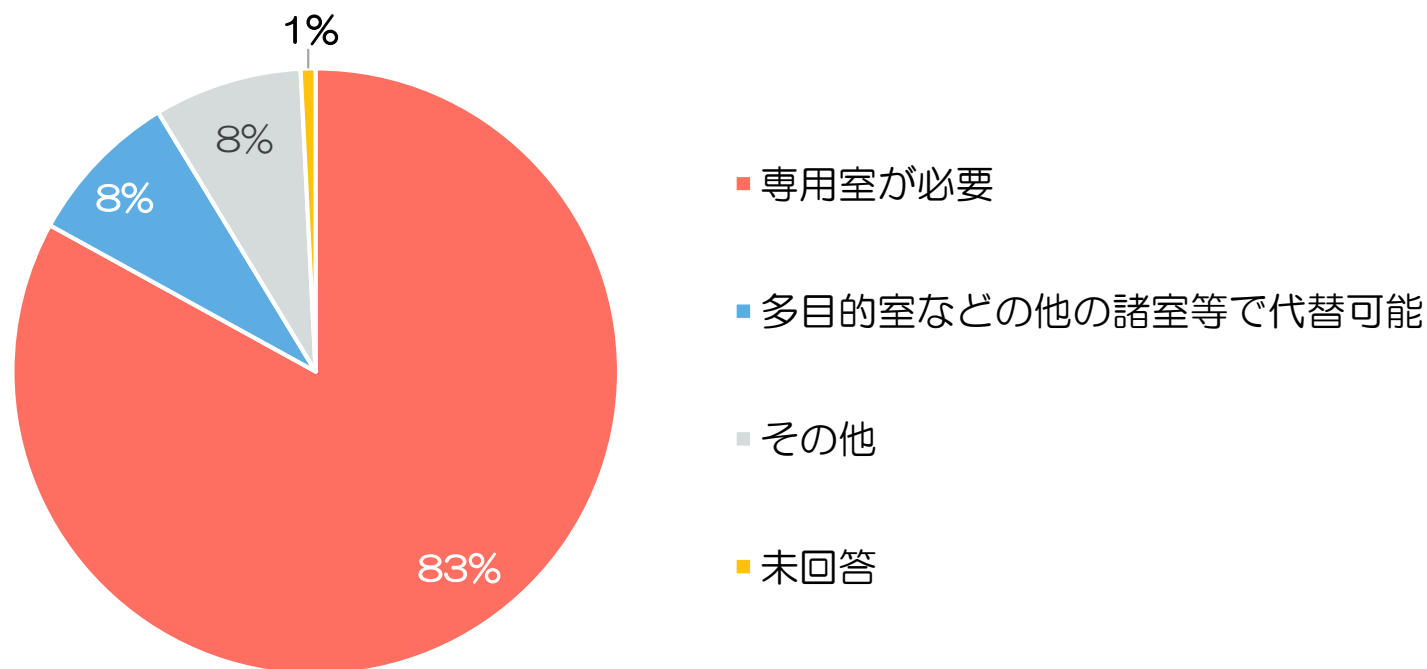
- ・発達段階により対応が変わる
- ・全学年で、必要に応じてカーテン等でスペースを確保できる柔軟な整備が必要
- ・高学年は専用室が望ましいが、設置場所によって移動時間の増加や学年体育時の収容不足などの課題がある

更衣室の必要性

5割以上が専用室が必要と回答している一方、仕切り用のカーテン等の活用により代替が可能な回答も約4割であった。

なお、発達段階により対応が変わるという意見も見られた。

Q12 不登校の児童等の対策として、指導のための専用室が必要か、お答えください。（1つ選択）



（その他の意見（抜粋））

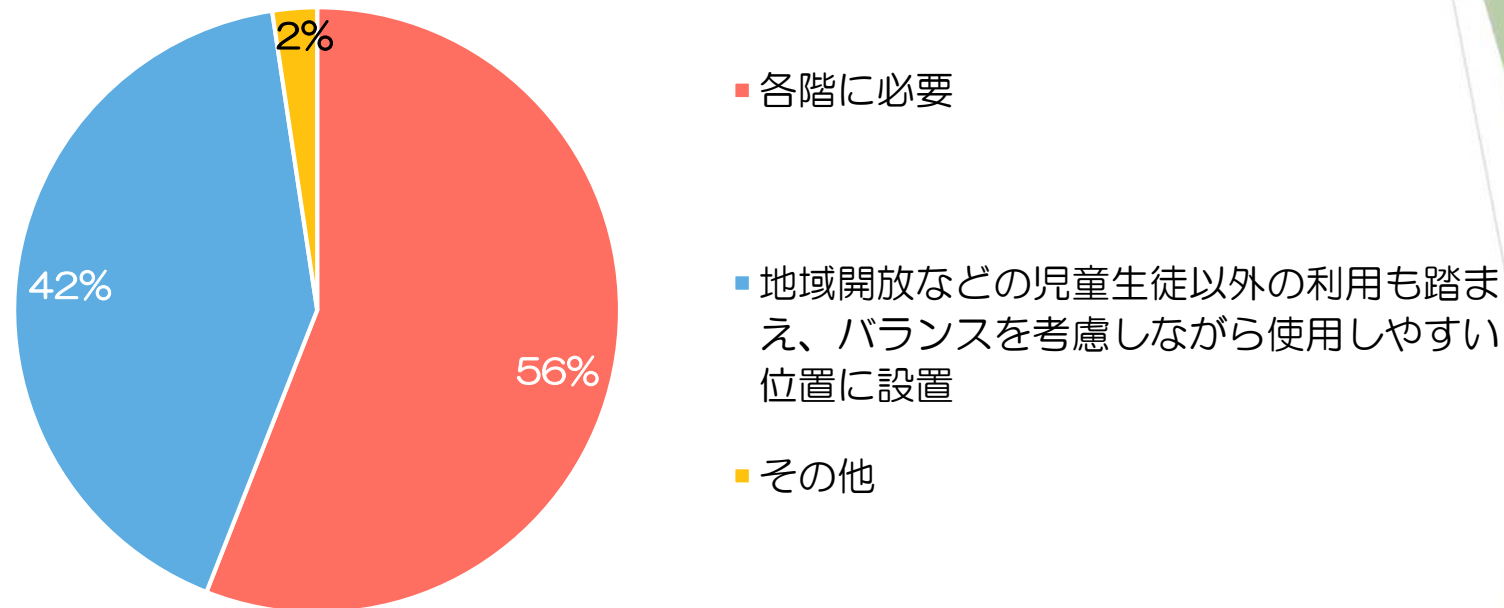
- ・ 不登校児童にはさまざまな支援をする施設があるため、無理に学校内で確保する必要はない
- ・ 児童に応じた対策が必要
- ・ 専用室だと、かえって入りづらい児童もいるのではないか

不登校児童への指導専用室の必要性

専用室が必要との回答が8割程度を占めた一方で、諸室等で代替可能という回答も1割ほどあった。また、「その他」では児童に応じた対策が重要であるという意見等が見られた。

Q13 小学校の建替えやリノベーション（大規模改修）する際に、障がい者対応、学校開放、災害時の避難所利用などを踏まえ、「バリアフリースイレ」の必要性についてお答えください。（1つ選択）

※「バリアフリースイレ」とは、障がいや身体的な特性、性別、年齢、国籍、文化などの違いに関わらず、あらゆる人が気兼ねなく利用できるように設計されたスイレのことです。



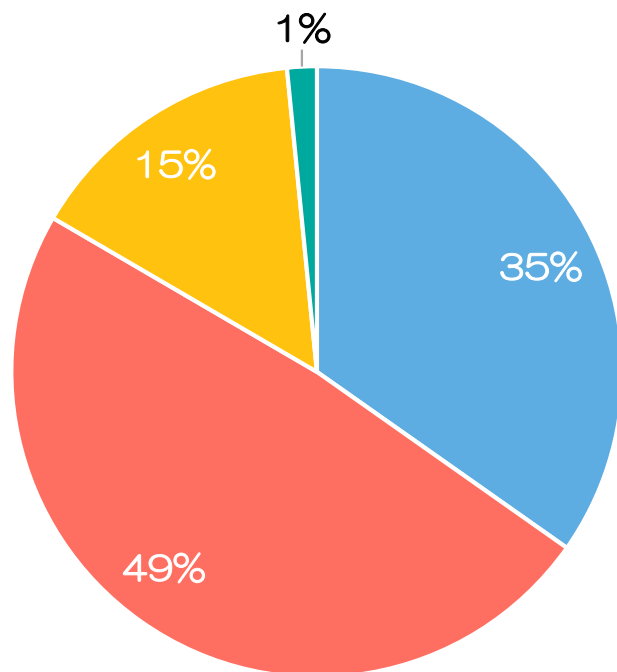
（その他の意見（抜粋））

- ・各階に必要であり、地域開放などの利用も考慮して設置・運用を検討してほしい
- ・1階と2階には必ず必要
- ・だれでもスイレの必要性以前に、入口が男女一緒になっている造りを改善してほしい

バリアフリースイレの必要性

バリアフリースイレは、各階に必要という回答が約5割以上であったが、バランスを考慮して配置すべきという回答も4割程度あった。

Q14 建替工事(リノベーション工事)の影響を踏まえ、建替え等はどのように進めればよいと考えるか、お答え下さい。(1つ選択)



- 工事中の児童への安全対策等を図ることができれば、現在の敷地内で「通学しながらの工事」を進める
- グラウンドが使えない、工事車両などにより安全性が懸念されるなど、学校生活への影響を考えたとき、工事期間中は「使っていない学校などに仮移転させ工事」を進める
※仮移転した場合には、必要に応じ送迎バスの運行を想定
- わからない
- 未回答

建替工事の進め方

「移転工事で進める」との回答が約5割と最も多く、ほぼ過半数を占めている。

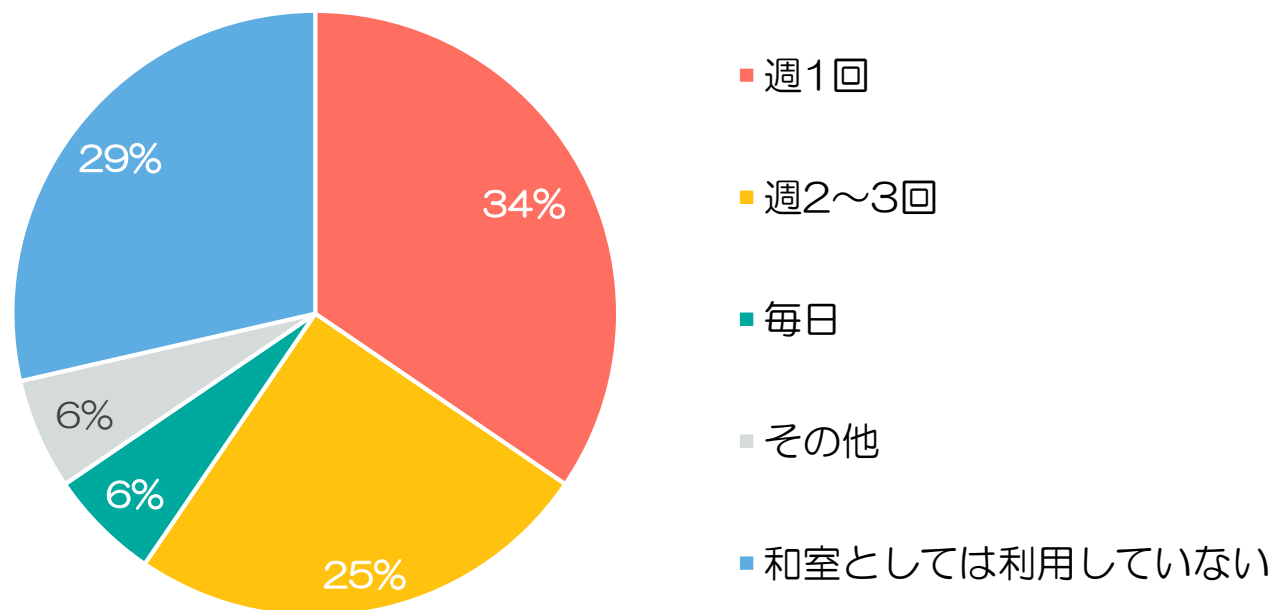
整備方針改定の検討に 向けたアンケート (中学校教員)

実施期間 令和7年5月15日から6月5日まで

回答数 91

東京都北区教育委員会

Q1 和室の学校全体での利用頻度をお答えください。（1つ選択）
※対象の室が配置されている学校のみを集計対象としています。



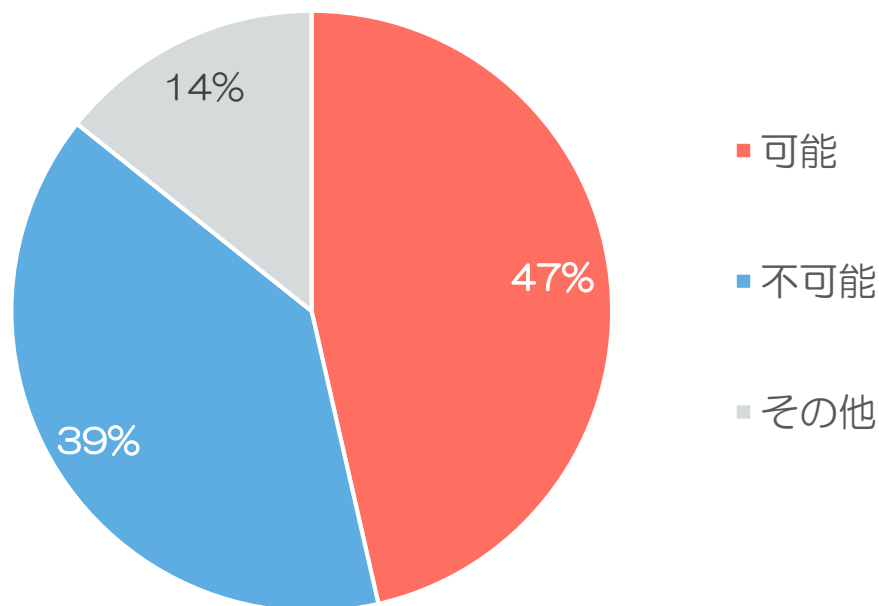
（その他の意見（抜粋））

- ・部活で月2回程度利用している
- ・出前授業やその他特別活動等の際に利用している
- ・月2回の部活動（華道部）および、学校公開講座（茶道教室）で年6回程度利用している

和室の利用頻度

少なくとも週1回以上利用しているという回答は、合計で6割以上あった。
一方、そもそも「和室としては利用していない」という回答が3割弱あった。

Q2 和室は専用室でなく、多目的教室等で代替することは可能と考えますか。
(1つ選択)



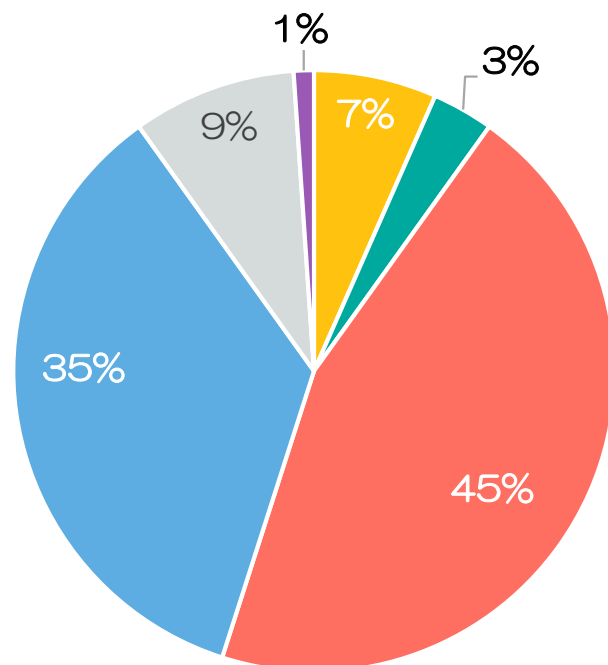
(その他の意見(抜粋))

- 使用人数が限られるため、多目的室としても使用目的に限りがある
- 多目的室利用の具体的内容が不明だが、畳敷きなので、利用の範囲に限りがあるように思う
- 和室として使いたい時にその機能が備わっているのであれば、多目的室等での代替は可能ではないか

和室の代替可能性

多目的教室等で代替可能という回答が5割弱だった。一方で、代替不可能という回答も4割程度あったほか、利用範囲に限りがあるという意見も見られた。また、部活動での利用もあるため、代替不可能という意見も見られた。

Q3 図書室の利用について、最も近いものをお答えください。（1つ選択）



- 3クラス以上が一度に利用することが多い
- 2クラスが一度に利用することが多い
- 1クラスが単独で利用することが多い
- 1クラス未満の児童生徒が利用することが多い
- その他
- 未回答

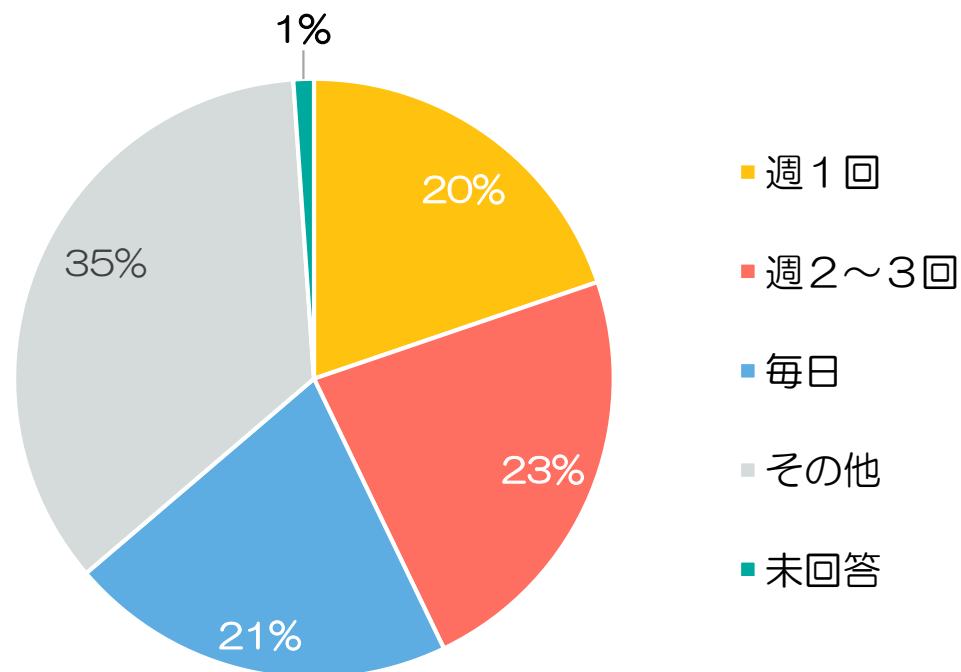
（その他の意見（抜粋））

- ・ クラス単位の授業や総合の時間での活用、昼休み・放課後の利用、自主学習場所、学年会議等、様々な用途で活用している
- ・ 学校の授業で使う場合や昼休みの開放等で使用する場合など、それぞれ利用人数は異なる

図書室の利用について

1クラス単独または、1クラス未満での利用が全体の8割を占めており、2クラス以上での利用は合計で1割程度と比較的少ない傾向にある。

Q4 Q3で選んだ選択肢の利用頻度はどの程度かお答えください。（1つ選択）
※対象の室が配置されている学校のみを集計対象としています。



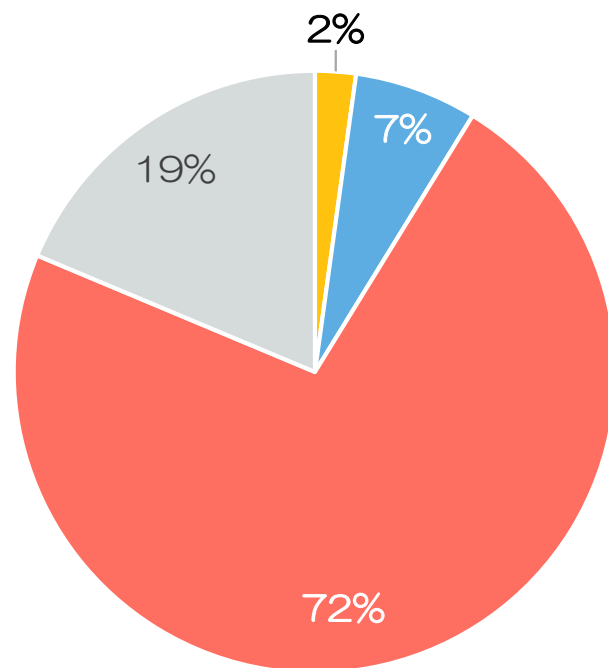
（その他の意見（抜粋））

- ・国語の授業で集中的に使うことがある
- ・教科学習での利用（2週間に1回）、昼休みの本の貸し出し（毎日）など、利用頻度は様々
- ・各クラスとも年に1～2回程度の利用ではないか

和室の利用頻度

「週1回」「週2～3回」「毎日」の回答数がほぼ同等の割合であり、その他意見で見られたように利用頻度は様々である。

Q5 現在の生徒の図書室の利用状況から見た図書室の規模について、お答えください。（1つ選択）



- 図書室で本を読む生徒が少なく、スペースを縮小しても問題ない（縮小が考えられるスペースを教えてください）
- 授業などで利用する際は、近接する多目的室などで代替するなどの対応を考慮することで、閲覧スペースを縮小することは問題ない
- 生徒が頻繁に利用しており、図書室全体をみても縮小するようなスペースはない
- その他

（その他の意見（抜粋））

- ・ 区教委としては読書を全面的に推進している中、図書室の規模を縮小する考えに至らない。むしろスペースを拡大するべきと思う
- ・ 利用生徒の多い少ないに関わらず、規模は維持するべきである

図書室の利用規模について

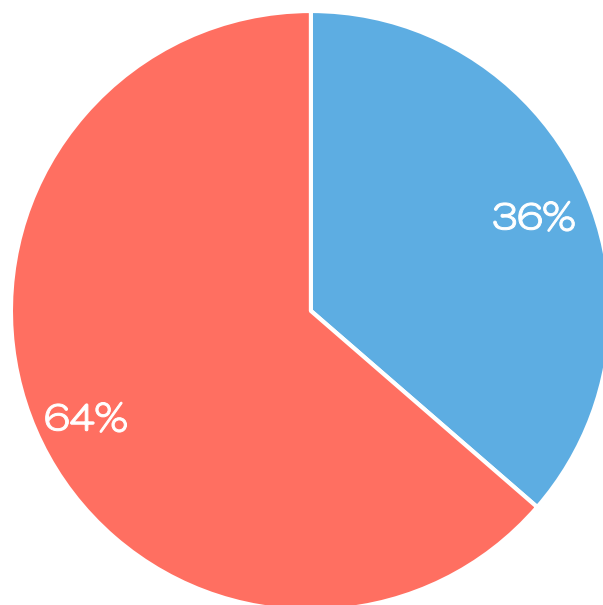
利用規模については、児童が頻繁に利用しているため、縮小するようなスペースはないというか回答が7割程度あった。

また、「その他（約2割）」において、少なくとも規模は維持すべきといった意見が見られた。

Q6 勤務する学校における「オープン型教室」の利用状況についてお答えください。（1つ選択）

※「オープン型教室」とは、教室と廊下の壁をなくし、廊下部分を多目的スペースとして学習空間に活用できるようにした教室です。北区の学校には、廊下と教室の間に可動式の仕切りを設置したオープン型教室があります。

※対象の室が配置されている学校のみを集計対象としています。

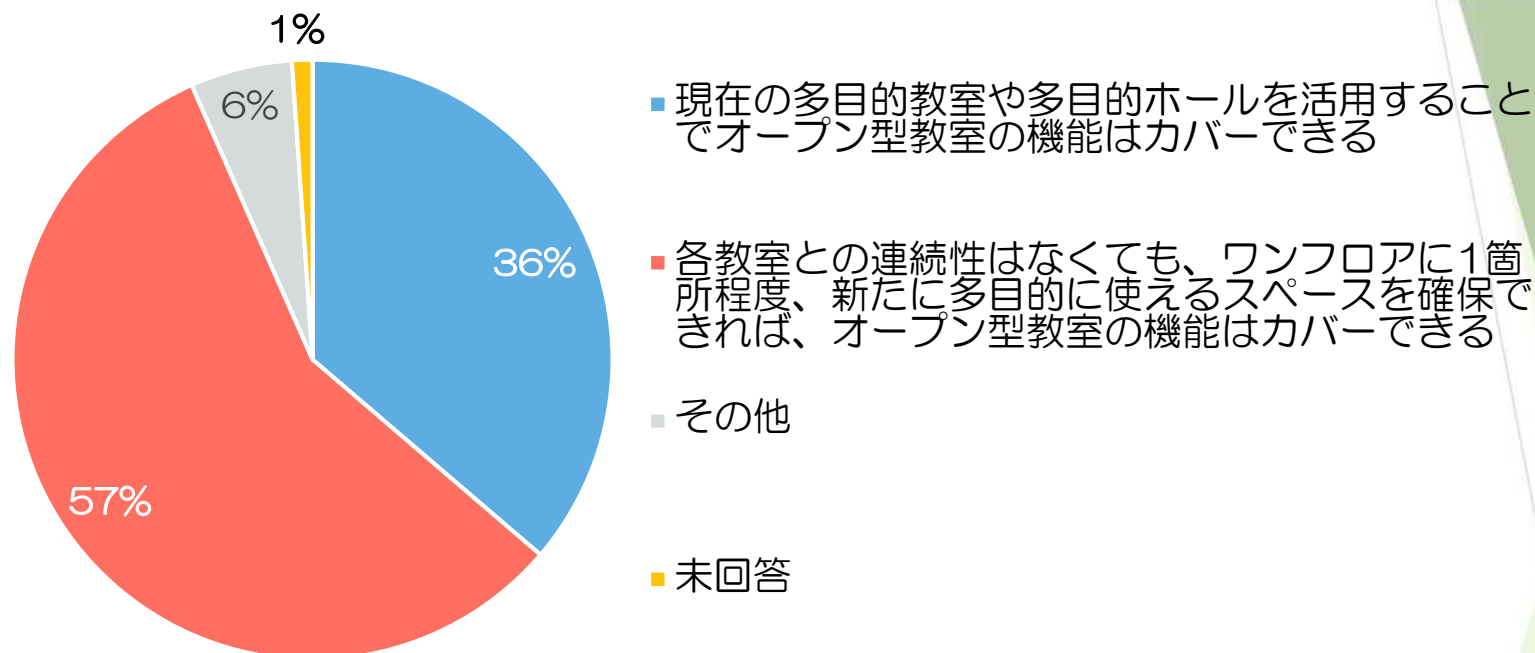


- 設置されており、教室と一体的に利用している
- 設置されているが、教室と一体的に使う頻度は低い

オープン型教室の設置状況

オープン型教室を教室と一体的に利用しているとの回答が4割弱であるのに対して、設置されているが教室と一体で使う頻度は低いとの回答が6割強であり、オープンスペースが有効に活用されているとはいえない状況である。

Q7 オープン型教室と同様の機能をもった学習環境を確保するには、どのような方法があると考えますか。
(1つ選択)



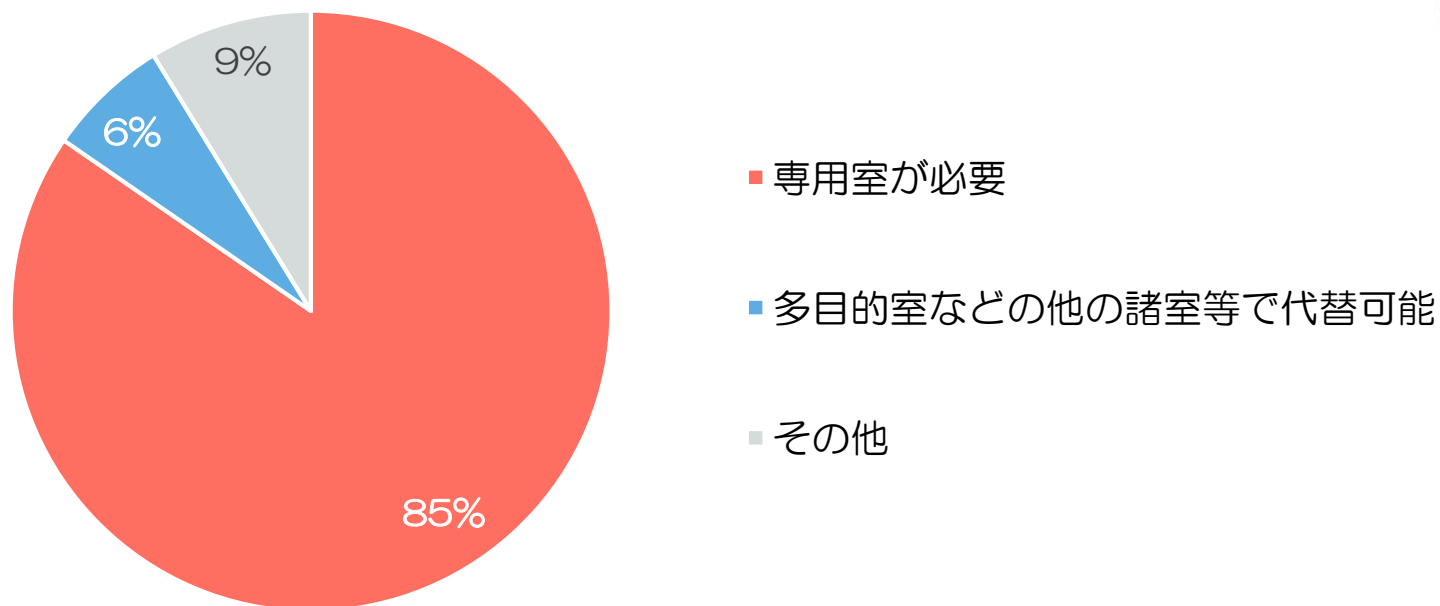
(その他の意見(抜粋))

- オープンにもクローズにもできる構造にするのが望ましい
- 1、2年生の階には多目的教室が各1室あるが、落ち着かない生徒のためには必要であり、代用はできない
- 多目的教室や多目的ホールがあることが前提であり、スペースの確保も含めて代用は難しい

オープン型教室と同様の機能を確保する方法

6割程度が「各階に新たな多目的スペースを確保することで代替できる」と回答している。

Q8 不登校の生徒等の対策として、指導のための専用室が必要か、お答えください。（1つ選択）



（その他の意見（抜粋））

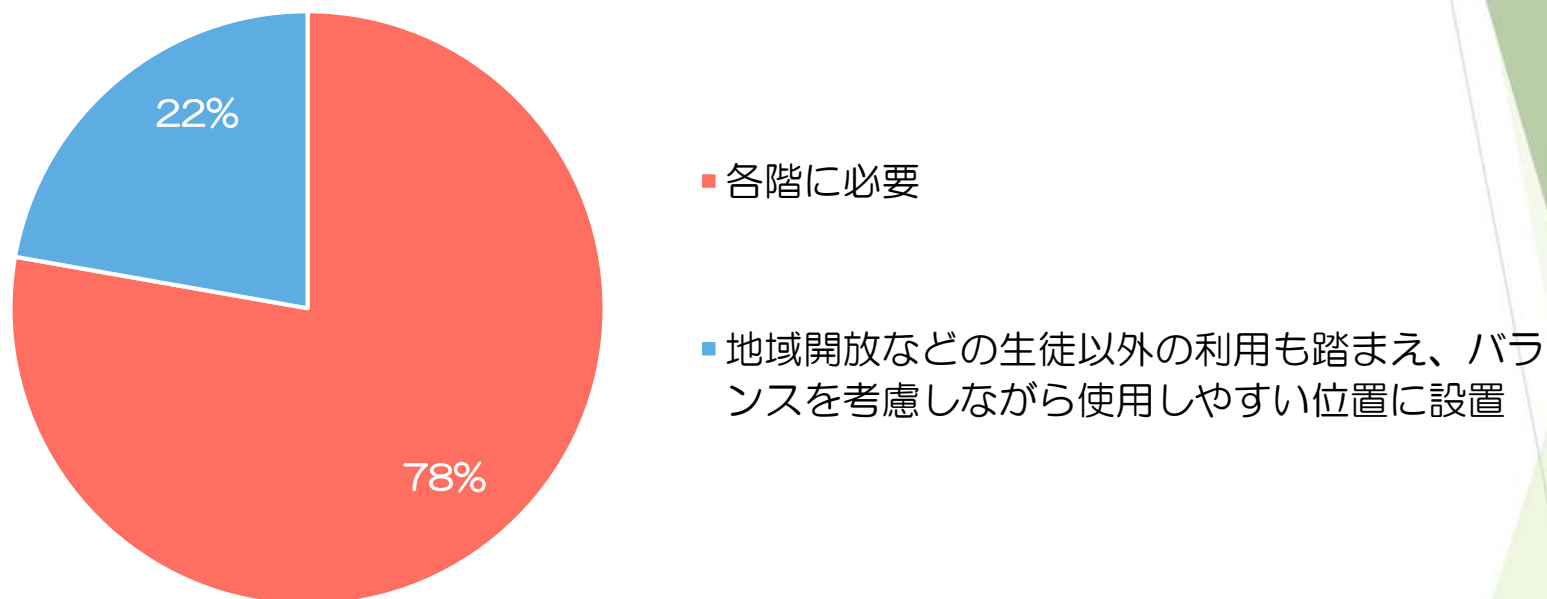
- 専用室も必要だが、不登校生徒の状態も意識してほしい。コミュニケーションなのか怠学傾向なのか、素行不良なのか、その生徒によって違いがあり、単に専用室を利用してくださいと言われても活用できない
- 現在、不登校生徒用に開放している部屋が狭いため、不登校生徒が重なって登校してくると厳しい

不登校児童への指導専用室の必要性

専用室が必要との回答が8割以上あった。また、「その他（約1割）」では生徒の状態に応じた対策が重要であるという意見等が見られた。

Q9 建替えや大規模改修する際に、障がい者対応、学校開放、災害時の避難所利用などを踏まえ、「バリアフリースイレ」の必要性についてお答えください。
(1つ選択)

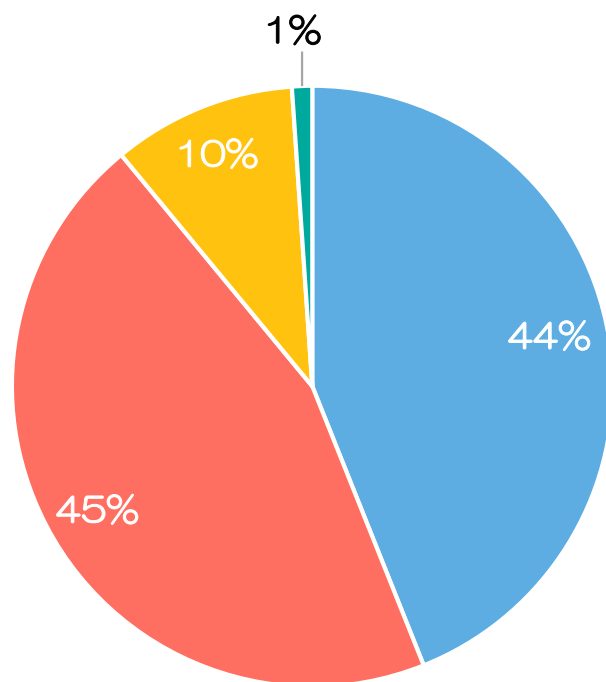
※「バリアフリースイレ」とは、障がいや身体的な特性、性別、年齢、国籍、文化などの違いに関わらず、あらゆる人が気兼ねなく利用できるように設計されたトイレのことです。



バリアフリースイレの必要性

バリアフリースイレについては、各階に必要という回答が約8割と大半を占めている。

Q10 建替工事(リノベーション工事)の影響を踏まえ、建替え等はどうに進めればよいと考えるか、お答え下さい。(1つ選択)



- 工事中の生徒への安全対策等を図ることができれば、現在の敷地内で「通学しながらの工事」を進める
- グラウンドが使えない、工事車両などにより安全性が懸念されるなど、学校生活への影響を考えたとき、工事期間中は「使っていない学校などに仮移転させ工事」を進める
※仮移転した場合には、必要に応じ送迎バスの運行を想定
- わからない
- 未回答

建替工事の進め方

「移転工事を進める」との回答が4割以上、「現敷地内で工事を進める」との回答が4割以上であり、ほぼ同程度の割合であった。